（メッセ海外通信 2014年7→9月号掲載記事）

～「礼儀」と「面子」～

下関市総合政策部国際課
（青島市派遣職員）
木下　清治

先日、この紙面でもご紹介させていただいた「青島友好の旅」ですが、台風の影響で中止となってしまいました。日本に大きな台風が迫っているというのは報道等で知ってはいましたが、青島は快晴であったため、まさかフェリーが欠航になるとは露ほども考えておらず、下関市から中止の連絡を受けたとき、とても信じられない気持となりました。この「青島友好の旅」が中止となったことから、青島市で開催予定であった下関市・青島市友好都市締結３５周年記念の一連のイベントも、その多くが中止となってしまいました。「青島友好の旅」を楽しみにして頂いていた方々、また、一年以上前から、このイベントのために休日返上で準備してきた下関市・青島市の関係者のことを思うとなんと言っていいのか、本当に言葉がみつかりません。

このような状況でしたが、下関港中国青島セミナーは、中止となってしまった一連のイベントと日本からの出発日がずれていたため、予定通り開催することができました。このセミナーには、青島の下関市にゆかりのある企業の方も多く参加されるため、急きょお手伝いに伺いました。セミナーの目的は、中国・青島の企業に下関港の優位点・補助金制度などをアピールし、もっと下関港を利用してもらおうと、下関市長自らトップセールスを行うもので、今年は下関市・青島市友好都市締結３５周年記念事業の一環として青島市で行われました。今回の会場は、青島で五つ星のホテルとして最も格式があると言われているシャングリラホテルで行われました。先日、青島で行われたＡＰＥＣ貿易担当大臣会合の会場にもなりました。関係者を含めおよそ２００名が詰め掛け、大変な盛り上がりを見せ、素晴らしいセミナーとなりました。それもこれも下関市・青島市の関係者の事前の準備の賜物だと思います。

下関港中国青島セミナーの様子

今回実施することができたイベントや、惜しくも中止となってしまったイベントなど下関市・青島市友好都市締結３５周年記念のための様々なイベントの準備を通して、日本と中国の間で仕事をする者の役割の大きさを改めて認識しました。

今回のキーワードは、「礼儀」と「面子」です。

日本と中国は、当然違う国です。文化が違います。仕事の進め方も違います。特に仕事の進め方には、お国柄・企業文化など個人ではどうしようもない問題もあります。しかし、結局「人と人」だと思います。重要なのは、相手の立場になって考えることです。国は違えど同じアジア圏です。相手に対する「礼儀」の考え方など共通するところは、たくさんあります。相手への「礼儀」を欠いては、上手くいくものも上手くいきません。

また、中国は、「面子」の国とも言われます。中国側が「面子」を潰されたと感じた場合、日本側が思っている以上に激しい反発が起こることを覚悟しなければなりません。簡単にいえば、「自分がされて嫌なことは、相手も嫌」なのです。日本人なら、小学生でもわかる基本中の基本です。国が違うからといっても、このことを忘れてはいけません。

相手に対する「礼儀」を持って、「面子」を潰さないように、仕事を行う。どこまでがＯＫで、どこからがＮＯなのか。この最前線にいるのが、日本と中国の間で仕事をする私たちです。この３５年間、先輩諸氏が築き上げてきた下関と青島の友好関係を私たちの代で潰すということは絶対にあってはいけません。この危機感を常に持っているか？友好関係の上にあぐらをかいていないか？さらに発展するよう常に考えて行動しているか？下関市・青島市友好都市締結３５周年記念事業を通して、これらのことを改めて強く考えさせられました。